

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○3月2日～

2月28日、イスラエルと米国がイランに攻撃しました。

今週はイラン攻撃があるかもしれないと思っていましたが週が明ける前に始まってしまいました。イラン最高指導者のハメネイ師が死亡というニュースも入ってきているため中東情勢から目が離せません。

マーケットへの影響は今後の攻撃がどうなっていくかによって変わってくるため為替、株、原油などの値動きに大きな変動がないか気をつけておく必要があります。

リスク回避の動きが強まるのか、多少の調整があった後は戻してくるのかテクニカルチャートの形にも注目したいです。

すでに中東のあちこちの国で航空機が飛ばなくなったり、米軍基地が攻撃されたりとイスラエルとイラン以外の国でも被害が出ています。

ホルムズ海峡も事実上閉鎖されているような状況ということで、長引けば貿易など实体经济への打撃も大きくなりそうです。

先週は日銀の人事が2人ともにリフレ(デフレから脱却したがインフレと呼ぶほどでもない状態のこと)派だったこともあり、日経平均は6万円に迫るところまで上昇しているため本格的な調整となれば大きく下がるかもしれません。

リフレ政策とは、生産活動が低迷している時に、過度な物価上昇を避けながら金利の引き下げや財政出動によって景気を回復させようとする政策です。

日銀は今後も利上げを考えているようですが高市首相は金融引き締めになる政策は進めたくなさそうです。

政府と日銀の思惑がかみ合っていないため春に日銀が利上げをするかどうかは微妙な状況です。期待だけが先行して日経平均は大きく上昇していますが高市政権は具体的にはほとんど何もしていない状態なので、株価の上昇はやや違和感があります。

為替相場は米国がドル高を容認しない姿勢を明確にしているためドル/円が160円を目指す動きは今のところおさえられています。

世界的に見るとドルは弱くなってきていますが円に対しては強いいため、最近ドル/円よりもクロス円の上昇が目立ちます。

ニュースが多いため予測が難しいですが季節的にも3月は株価が急落しやすい時期なので、ニュースや指標発表をきっかけに株価暴落からリスク回避的な動きが強まるという流れに注意がいります。今週は中国で全人大(中国全国人民代表大会)も始まります。

すでに米国株を見るとナスダックやS&P500は下げ始めているようにも見えるため日経平均やNYダウだけでなく、米国株全体の動きも見ておきたいです。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

先週のドル/円は緩やかに上昇し、156円台後半まで上昇しました。

158円手前には抵抗があるため156.85円を超えても157円台後半では利益確定した方がよさそうです。

158円を超えると160円を目指す動きになりそうですが介入警戒感も強まってくるため高値買いは避けたいです。

下値は155.5円を割り込むと154円あたりが下値のメドです。

ここも割り込んでくると152円台まで下落するリスクが出てきます。

152円は重要なサポートのため152円割れとなると円高が進みそうです。

<気になるクロス円>

クロス円も先週は上昇しているペアが多く、週明けの動きに注目したいです。

高値から反落して下げてきた場合は、下げ止まるまで買いは様子見がよさそうです。

株、ドル/円が下落すればクロス円も下げやすくなるため注意がいります。

原油価格が上昇していけば、豪ドルなどの資源国通貨にはプラスになるかもしれません。

豪ドルは金融政策面でも利上げに転じているため上がりやすい状況です。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では特に指標発表はありません。

米国では2月製造業PMI(改定値)、2月ISM製造業景況指数、2月ADP雇用統計、2月サービス部門・総合PMI(改定値)、2月ISM非製造業景況指数、米地区連銀経済報告(バージュブック)、前週分新規失業保険申請件数、2月雇用統計、1月小売売上高などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで2月製造業・サービス業PMI(改定値)、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言、2月消費者物価指数、1月卸売物価指数、1月小売売上高、10-12月期GDP(確定値)、ドイツで1月製造業新規受注などがあります。

ほかには、オーストラリアで10-12月期GDP、中国で2月製造業PMIの発表などがあります。